

第11回 大宮グランドセントラルステーション推進会議 議事録

開催日時：令和3年1月27日（水）15:00～17:00

開催場所：Teams によるオンライン開催

出席者 (敬称略)

氏名	選出区分	備考
岸井 隆幸	学識経験者	日本大学 理工学部土木工学科 特任教授
久保田 尚	学識経験者	埼玉大学 大学院理工学研究科 教授
窪田 亜矢	学識経験者	東京大学 大学院工学系研究科 特任教授
河野 見義	地元まちづくり団体	大宮駅東口南地区市街地再開発準備組合 理事長
栗原 俊明	地元まちづくり団体	大宮駅東口西地区N街区まちづくり推進協議会 会長
町田 宏遠	地元まちづくり団体	大宮駅前大門町一丁目中地区市街地再開発準備組合 理事長
齋藤 巖	地元まちづくり団体	大宮駅東口北地区市街地再開発準備組合 理事長
齊藤 誠	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部投資計画部 担当部長
横尾 武士	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 総務部長 (代理：企画室長 金森 勇樹)
吉野 利哉	鉄道事業者	東武鉄道株式会社 常務執行役員 鉄道事業本部長
渡邊 哲	鉄道事業者	埼玉新都市交通株式会社 代表取締役常務
石井 貴司	関係行政機関	埼玉県 企画財政部 地域経営局長
長谷川 俊正	関係行政機関	さいたま市 都市局長
町田 孝良	関係行政機関	さいたま市 大宮区長
工藤 和美	デザイナー	一般社団法人アーバンデザインセンター大宮 センター長 (代理：副センター長 藤村 籠至)
奥田 謁夫	オブザーバー	国土交通省 都市局 都市安全課 都市安全対策官
太田 裕之	オブザーバー	国土交通省 鉄道局 都市鉄道政策課 課長補佐
佐藤 学	オブザーバー	国土交通省 関東地方整備局 建政部 都市調整官
岸本 誠	オブザーバー	独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 事業企画部 担当部長

次第

1. 開 会

2. 議 題

<会 長> 初めての Web 会議になる。協力をお願いしたい。

今日はこれまでの議論をまとめることになる。お手元の議事次第に従い、議題の 2 つ目まで、これまでの議論の振り返りと部会での検討内容、GCS プラン 2020 の修正案に関して一括で説明していただいて議論を整理したい。その後、進め方について議論いただく。

<事 務 局> 資料 1（第 10 回推進会議の振り返りと部会等での検討内容）、資料 2（大宮 GCS プラン 2020（案）修正案）について説明。

<会 長> 今、説明いただいたものが GCS プランに反映されている。部会長から補足のコメントをいただきたい。

<窪田委員> ガイドラインの修正について、前回、合同部会で議論をした際の繰り返しになるが、2 点ほど申し上げたい。

1 点目として、回遊性の拠点となる滞留を確保する場所についての記載はあるが、これからどのようにそれが作られていくのか、あるいは歩行者ネットワークがどのようになっていくのかというところが弱いのではないかと申し上げていたが、今日の説明だとよくわからなかったので教えていただきたい。2 点目として、PT の設置の条件や構成メンバー、議論の内容、地権者や所有者との関係性、PT の権限等について不明瞭ではないか。特に UDCO の役割も含めてもう少し明確にしたほうがよいのではないかと申し上げたが、どのように考えているのか教えていただきたい。

<会 長> 合同部会の議論のポイントを 2 つにまとめてお話しいただいたが、事務局から何かお答えになるか。

<事 務 局> 1 点目の回遊性や公共的空間の記載については、合同部会でもご意見をいただき、回遊性の部分は GCS プランの中で表現を修正させていただいた。その実効性については、これから各開発街区で界隈性のある計画、各論に入る際、GCS プランの方向性に立ち戻って判断していくとよいというご意見をいただいたことを踏まえ、各開発街区で検討していただきたい。

加えて、行政が中心となる都市施設、駅前広場や公共的検討エリアの部分について、行政としても開発街区から、この部分は交流広場にできないか等と

いったご提案があれば、適宜調整して進めていきたい。行政がリードする部分と開発街区で検討していただく部分の整合を図りながら進めていきたい。2つ目のPTでの決定方法や流れに関して、詳しくは次の議題である「今後の検討体制と進め方」で説明するが、PT単体では決定できない内容、相互に連動する内容については、PTを合同開催しながら進めていきたい。これから立ち上げるまちづくり調整会議でも開発街区、鉄道事業者、行政を含めて調整して進めていきたい。

検討体制と進め方については、改めて後ほど説明させていただく。

<会長> 後半のご質問の内容については、後のこれからの体制の議論として繰り返し確認させていただきたい。前半の質問についてはよろしいか。これからプロジェクトが動いていくと民間側からの発意もあれば、行政からの計画も加えていくということが頻繁に起こりながら、個別のプロジェクトの中に全体のもものが反映されていくということか。

<窪田委員> 体制のようなものが確立されるのであれば、そういうことだと理解した。

<会長> これはとても重要な問題なため、これからどのように全体を進めていくかについては後ほどご意見をいただきたい。

続いて、久保田先生にお願いしたい。

<久保田委員> 12月末に開催された合同部会で司会をした者としてそのときの状況を簡単に紹介したい。

基本的には今日の会議資料を作るための会議であったが、資料3のP.66以降について、ピンクの欄はプラン2020到達点として、これまでの議論でGCSプラン2020の案として到達点だとみんなで思うところを書いており、青い欄は今後の検討課題として、ここまでの段階ではまだ確定できていないということとまとめている。

しかし、ピンクの欄についても2通りあり、合同部会に参加していただいている方の中で異論なく到達点になっているものもある一方で、必ずしも全員がそうだなと思っていない点もある。それについては、まずは2020の到達点としてここに記載させていただくが、まだ別の案があるのではないかとのご意見もあるため、2021以降に別途議論がいろいろな形で進む中での議論にさせていただきたいと仕切らせていただいた。ピンクと青の欄の記載の意味はそのように受け止めていただきたい。

合同部会で最も議論になったのは今後の進め方である。今の流れをどのように引き継いで、さらに進化させていくのかについて議論があった。それについては次の議題のときに議論させていただきたい。

<会 長> P. 66 以降の表記の中でピンクと青と使い分けをしているという説明をいただいた。

振り返りになるが、資料 3 の P. 33 にプランの全体像が出ている。議論していただいたとおり、この場所は大宮の中心としての考え方を議論するためにも、まず大宮のまちづくり戦略について議論させていただいて、大きな枠組みを作って、個別の目標に従ってそれぞれのプロジェクトが動いていく流れである。非常に複雑で広いエリアを書いているため、1 枚の図面できれいに書くことが難しく、個別の整備計画で調整をしながら、各 PT で分けながら議論を進めてどこかで調整を図るといふことの繰り返しをやろうということである。合同部会はある意味では全員が集まって議論する場だと理解しているが、その中でもまだ個別計画としても少し議論が必要なところがあるし、実際に再開発のプロジェクトが動いていくという段階においては建物の中身や景観等これから検討するところもあるため当然変化が出てくるだろう。ダイナミックな調整の方法が、最後に指摘いただいたこれからの体制や、実現するためのシナリオづくりだと思っている。

事務局から特に今の久保田先生の指摘について、意見や説明等なければ、今後の話と一緒に議論したほうがよいと思うため、窪田先生からも意見があった今後の体制、進め方について一旦説明させていただいてから意見交換をさせていただきたい。

<事務局> 資料 4（今後の検討体制と進め方）について説明。

<会 長> P. 2 がこれからの体制に関する提案である。GCS も構想から始まって、今回は GCS プラン 2020 という形でこれまでの到達点を一旦整理するということだが、いよいよ本格的にこれからまちづくりの事業に入っていく段階のため、まちづくり調整会議というのは全体のバランスを取って確認していく会議になるのだろう。そのためには、今のまちづくりの振り返るべき点が GCS プラン 2020 となるが、変化する時代への対応を含めて幅広い知見の意見をもらうために推進戦略会議を設置している。その下に各 PT があるが、動き出せば合同開催が必要な場面がたくさん出てくる可能性がある。その上

で、最後はまちづくり調整会議でもう1度確認しながら進んでいくというのが来年度以降の体制である。ここまで概ね皆さんが合意できたところ、これから議論を深めていくところをわかるようにしながら少しずつ進行しているということを示して、いずれプランが更新される可能性もあるかと思う。最初に両先生からさらに今の体制をお聞きになった上で、コメントやご注意があればいただきたい。その上で各委員からご意見をいただきたい。

<窪田委員> 確認だが、駅機能とは交通機能だけということの理解でよいか。駅周辺のショッピングビル等の議論は駅機能高度化検討会ではなくて、まちづくり調整会議や駅前開発街区の検討会で議論されるという理解でよいか。

<事務局> この体制図の右にある駅機能高度化検討会については鉄道事業者、埼玉県、さいたま市で構成するが、駅機能の高度化という名称については交通政策審議会でも高度化という言葉を使っており、乗換の改善や駅ビルも含まれる部分について、鉄道事業者と行政でまずは検討していくこととしている。

駅前広場PTについては、開発街区及び鉄道事業者との調整もあり、公共空間としての駅前広場について検討をしていく場である。駅前広場は新東西通路とも連動しているため、連携しながら進めていきたい。

駅前広場PTで方向を考えたものをまちづくり調整会議に報告しながら意見をいただいて、よりよい方向に進めていくという流れである。

<窪田委員> つまり駅ビルの中に交通機能以外の商業機能を設けるときには駅機能高度化の中には含まれずに、他の会議体でまちの皆さんと一緒に鉄道事業者や県の方々が議論していくということか。

<事務局> 駅ビルの関係は鉄道事業者と調整する部分もあるが、地元の方にも情報を提供しながら進める必要があるため、駅機能高度化検討会では鉄道事業者との検討、駅前広場PTでは地元の方も含めた検討として、重複する部分もあるが、連動させて進めていきたい。

<会長> 鉄道事業者と行政の議論、民間の皆さんとの議論、一旦はわかれて行うが、最後はまちづくり調整会議で全体のバランスを確認しながら情報共有して進んでいくということでしょうか。

<事務局> そのとおりである。

<会長> 久保田先生、何か注意はあるか。

<久保田委員> 2つほど申したい。1つはまちづくり調整会議について、合同部

会でもかなり皆さん心配されていたが、今のお話を聞くと、各 PT 間の調整もしっかり進めていけそうでよいと思う。しかし、恐らくまちづくり調整会議は年に数回の開催という従来型の会議ではなくて、今日やっている Web 会議のようなことが毎日のように開かれて各 PT からいろいろな案件が出てくるのを調整するぐらいの勢いでないと調整しきれないのではないかと感じている。よろしくお願ひしたい。

もう1つは、先ほど申し上げたピンクと青の欄について、2020 到達点であるけれどまだ今後の課題等の青い欄について決着の時期をそろそろ考えないといけない。特に3年以内の都市計画決定を考慮して、都市計画決定が必要な検討課題について、それぞれ議論に要する時間を考えて逆算すると GCS としての決断の時期が自ずと見えてくるはずである。論点はある程度明確になっているので、徹底的にその議論をしていただくというのが喫緊の課題になっていると思う。

<事務局> 久保田先生の意見のとおりだと思う。まちづくり調整会議については、毎日というわけにはいかないが、開発街区やコンサルタントと行政との協議や市と鉄道事業者との会議、開発街区同士の調整等もあるため、そのような個別の会議と全体に諮る場面をうまく組み合わせ、早く事業化できるように推進していきたい。

<会長> 各委員からの意見をいただきたい。久保田先生から指摘があったとおり、現時点における到達点である GCS プラン 2020 についてや、これからの体制の運用についても注意や注文があればぜひいただきたい。

<河野委員> 南地区の再開発事業のスケジュールは GCS 構想と整合性を取りながら進めていくが、各種基盤整備が現在決まっていない状態では事業が進められない状態である。したがって、GCS 構想実現に対して全体を一段と前倒しで推し進めていただきたい。結果、準備組合、地権者、関係者の利益に、さらに市民サービスの向上につながるものと考えている。

<齋藤(巖)委員> 確認だが、久保田先生から P. 66 以降のピンクと青の欄のお話があったが、GCS プランに関しては今後の進め方を今考えているという理解でいいのか。

また、具体的に何かがある中で決まっているということではないことを確認させていただきたい。

我々も今、いろいろと計画を立てている最中で、基盤が進まないと、整合性

が取れないため進められないと思っている。まち全体のこと、駅舎と商業の関係も含めて、まち全部を考えて調整しながら進めていけたらよい。

いつまでもただただやっただけではいけないため、できればなるべくコンパクトな形で時間軸を意識して進められればよい。

<町田委員> 南地区、北地区と同じように、私ども中地区も3年後には開発事業を進める予定である。地下車路、駅前広場、駅との関係をはっきりしていただかないと事業が進められない。

<会 長> 久保田先生の話にもあったように、まちづくり調整会議で議論する際に、時間軸や基盤に関するルールについては早く決めていただきたい。難しいところもあるかもしれないが、合意形成に向けて市が今後時間軸を意識して議論を進めていただきたい。都市計画決定の中身の詳細はもっと具体的に絵を描かないと決まらないが、迷ったときに元に帰るべきところはGCSプラン2020だと思うので、そこを共有しながらこの先さらに詳細な部分を詰めていくということの繰り返しになるだろうが、どこかで節目をしっかりと作っていただきたい。

<栗原委員> ほかの地区と同意見である。我々の場合は新東西通路が大きな課題となっており、これが決まらないことには何を考えればいいのか常に疑問を感じている。なるべく早い段階で議論が進むと助かる。

また、今後の検討体制について確認だが、資料4のP.2、プラン策定後にどんな決定があるのかわからないが、GCSを今後進めていくに当たって何かを決めるような中心になるところはまちづくり調整会議という認識でよいか。

<事務局> まちづくり調整会議をもっていろいろな合意形成を図っていききたい。その前段としてPTもとても重要な役割であり、様々な事業主体と調整して案をつくり、まちづくり調整会議に諮るという流れを考えている。

<事務局> 北地区から質問をいただいているので、事務局から回答させていただきたい。1点目にこのプランをもって決まったものか、決まっていなかったのかということを確認したが、久保田先生の話でもあったように、今回のGCSプラン2020の特徴として、到達点と検討課題に分けて整理させていただいた。この到達点が、皆さんでここまで検討してきたことである。全てが決まったことではなく、検討課題が多数ある状況なため、PTで検討を進めたいと考えている。

2点目の時間軸やまち全体を見据えた検討の重要性は意見のとおりで、これ

についてはまちづくり調整会議、推進戦略会議でもご意見をいただきながら、全体を俯瞰して調整しながら進めていきたい。

また、方向性がこれで決まったのかという質問については、まちづくりガイドライン案の目標が、これをもとに立ち返りながら進めていくという方向性という意味で決定させていただいた。ただ、新型コロナウイルスや新しい生活様式等、新たな要素についてはブラッシュアップしていく。

<会長> これまで議論を重ねてきた到達点が資料 3 である。皆さんこれから具体的な進め方に大変強い関心をお持ちだと思う。関係する部局の方からもご意見やご注意をいただきたい。

<齊藤(誠)委員> 基盤が決まらないとそれぞれの計画が進められないと思う。我々も新東西通路については次年度早々からでもさいたま市から委託を受け、設計をスタートする。今後スピード感を持ってしっかりスケジュールを考えながら進めていきたい。

また、今後の検討体制ではまちづくり調整会議は非常に重要になってくると思う。まちづくり調整会議が調整の場となると、各 PT と調整するという機能をどのようにしていくのか、うまくできるのかを懸念している。

<会長> 具体的に物理的な条件の整理をしながら設計が固まってくるため、頑張って進めていただいて、パターンがはっきりした上で議論させていただきたい。

<吉野委員> 先ほど西地区からお話があったように、まずは新東西通路の詳細を決めていくことが第一と考えている。新東西通路という専門のプロジェクトがあるため、私どもとしては早めに駅施設の具体的な絵が決まれば、全体像やプログラムが見えてくるはず。

<会長> 各パートでキーパーソンが真剣に考えて、その絵を持ち寄ってもう 1 度調整が始まるというのが次のフェーズだと思う。最初のステップが一番責任を持ってやらなければいけない皆さんで絵を描いて示していただきたい。

<渡邊委員> 今回、GCS プランの中では大宮駅の利便性と回遊性を高めていくとうたわれ、これから大宮地域の活性化が非常に高まることが期待される。早ければ 3 年以内の都市計画決定を目指すということなので、当社においても新しく立ち上がるまちづくり調整会議に加え、新東西通路 PT、駅機能高度化検討会にも参画して、このプランが早く実現に向けて動き出すことに協力

させていただきたい。

<石井委員> 今後、このプランを実現していくということが重要になる。その中でスケジュールイメージ、時間軸、検討課題、個別のまちづくりの計画と基盤の調整等が見えてきて、実行の段階に入ると思う。まちづくり調整会議の中ではそうした時間軸の共有を図っていくことが重要だと感じている。県としても、広域交通ネットワークに貢献できる大宮駅は埼玉県の大玄関でもあるため埼玉県全体の活性化につながるものだと感じている。そのような視点をもって決めていければよい。

<会長> スケジュール感をしっかり共有しないと先に行かないということはまさにそのとおりである。

全面的な支援をいただかないと前に進まないの、オブザーバーの方からも意見をいただきたい。

<奥オブザーバー> 久保田先生からもこれから検討すべき議題が多々あるとのことだったが、地域の方針に向けて大きな思いが今ようやくまとまってきたように感じる。

座長からも話があったとおり、これからこの思いを具体の形にしていく際には前提条件が必要となるだろう。我々も応援させていただく立場なため、親身に相談させていただきたい。形を1つ1つ作り上げる際にはぜひざっくばらんに相談いただきながら、支援もしっかりしていきたい。

その中で、スケジュール感は非常に大事だと思う。ある程度決めないと物事が前進しない部分もあるため、そのような時には他地域での役割分担等の事例を紹介できるかもしれない。大事な東日本の拠点であるため、私たちもしっかり応援させていただきたい。

<太田オブザーバー> このような形で基本構想がしっかりしていると後々の個別計画についても様々な修正も基本構想に立ち戻って考えることができると思う。

特に駅とまち側の連携の部分で、乗換も含めてまちとスムーズにつながるように、他局ときちんと連携して取り組んでいきたい。

<佐藤オブザーバー> 5年前の首都圏広域地方計画に位置づけられ、これまで議論を重ねていただいた関係者の皆様方のご尽力でよくまとめ上げていただいた。

来年度から新たな段階に移行しようとしており、引き続き関係者の皆様方と一緒に推進に携わっていきたい。

<岸本オブザーバー> 前任の梅津に代わって今回初めて出席させていただいた。

ようやく GCS プラン 2020 まで到達したということで、いよいよこれから具体的な議論が始まるということだが、今後の体制、特にまちづくり調整会議の運営方法について非常に重要になるだろう。これは体制としての調整会議の定期的な開催のみならず、形に拘らず必要に応じ必要な場面・関係者で機動的に調整を行うこと、つまり調整機能が今後は重要なのではないか。

<会 長> まちづくり調整会議はどういう運営をするのかということは大変大事なところだと思う。動きを見ながら行う必要があると思うが、このような場面で必要となりそうな藤村先生はいかがお考えか。

<藤村委員> まちづくり調整会議のあり方として、今後の実務的な体制について、現時点ではこのような形でまちづくり調整会議がコアになって、調整していくというイメージが提示されたことが大きいと思う。

実際には、PT で専門家同士の調整の際の前段階での調整が必要になってくる。そこがガイドライン PT と関連して、PT の中でガイドライン PT がまとめたものを調整会議に出していくという進め方のイメージがあるのだろう。そのため専門家を含めた PT でスピーディに検討する部分と、実際に事業者の方に諮りながら調整していく部分がつながって、その中で役割分担していくこととなる。UDCO としては PT 側の専門家に近いほうの調整の際の前段階での調整の部分で役割を果たしていく部分があると認識している。

<会 長> 今回は複数の地区があるが、1つのテーブルで議論し、全体である種の合意を図りながら進んでいることがとても重要である。各パートの最適解だけでなく、常に全体のバランスを見ながら進めていくため、まちづくり調整会議の役割の1つはそのような各ブロックでの動きを共有し、調整が必要な際は諮って決めるということである。

しかしこのような会合の頻繁な開催は厳しいことも考えられる。熊本では小グループを作って、1週間や2週間に1回開催しており、累計200回程度会合をしている。広域に影響が及ぶ共通したものと、専門家同士で議論して調整ができるものと、地元の方も含めて合意形成するものと、いくつかのフェーズがありそうである。そのため、全体のスケジュール感を共有した上で、決める順序、前提条件、ステップに対する理解等を共有することが次の段階であると思う。この先、本格的にまちづくり事業として進めていくとなると、必ずやどこかで途中の経過をみんなが合理的に考える必要が出てくる。そのような時にまちづくり調整会議が全体のバランスを見ながら行うということ

はとても大事である。

もちろん各パートで決めた方がいいものもあるため、それはしっかりと専門家で検討して頂きたい。全体としてのまちのイメージを高めていくための大きな戦略については、みんなが同じテーブルで議論している意識のもとで作業を進めていくということだと思う。

<齋藤(巖)委員> 岸井先生がおっしゃられたことは非常に大事なことだと思っている。各街区で考えると、お互いに同意できる部分とそうでない部分があると思うが、街区単位のことではないため調整して、日本に誇れるようなまちを作っていきたい。

<窪田委員> 皆が共有できたということを皆さんに確認できたことが非常によかった。

これまでを振り返って自分が何を考えてきたのかを考えたときに、みんながつくテーブルができたのは、このまちだったからだと思う。一人では絶対にできないことだが、一人一人が本当に真剣に頑張らなくてはいけない状況である。いろいろな人たちが関わっているからこそ、魅力があるということもいつも感じている。このことを次の人に渡せるような場になってほしい。

<久保田委員> 皆さん、大宮に対する愛をお持ちの方ばかりの集まりなので絶対いいものができると思っています。

<事務局> 皆さんからいろいろな期待、また行政に対する要望をたくさんいただいた。また先生からも色々示唆をいただいているため、これを参考に体制も含めてよりよい形にしていきたい。引き続きよろしくお願ひしたい。

<会長> 事業の段階になるとお金の工面等かなり生々しい話が出てくる。いつも仲良くというわけにはいかないかもしれないが、皆さんがしようとしていることは、大宮の力を信じて皆で力を合わせてワンランク上の大宮を目指すことだと思うので、地域の力をいかに高めることができるかが最後の皆さんの判断軸だと思う。オブザーバーで参加いただいている方々に支援をいただいて、大宮のまちとして勝っていくことを目指していきたい。

GCS プラン 2020 はある種の到達点を示すことができたと思っているが、地元の方たちがまさにまちづくりをしようとしているところなので、これからは意思の確認、あるいは合意形成にも時間がかかる可能性がある。しかし、それは仕方がないことである。皆さんの中で思っている大宮の力をどのよう

に実現していくのかということだけはお互いに忘れずに頑張っていたきたい。

3. その他

<事務局> 本日はありがとうございました。本日の会議録につきましては後日事務局で作成したものを委員の皆様を確認いただいた後、ホームページにて公開する。

4. 閉会

以上